

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
キビキビ通学合宿

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動をとおして、「生きる力」の基盤となる豊かな人間性や人間関係能力を高めるとともに、基本的生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

①日程 平成29年1月15日（日）～1月21日（土）6泊7日

②日程 平成29年2月19日（日）～2月25日（土）6泊7日

（2）参加者

① 募集対象・人数

参加対象 吉備中央町内の小学校第3、4、5、6学年

①日程：上竹荘小学校・下竹荘小学校・豊野小学校・御北小学校から15人

②日程：大和小学校・津賀小学校・円城小学校・吉川小学校・吉備高原小学校・のびのび小学校から20人

② 参加者

①日程：11人（3校）

②日程：22人（5校）

（3）講師等

②日程 施設ボランティア4人

（4）企画・運営のポイント

① 仲間としての意識を持たせ、一週間を班員で協力しながら生活ができることをねらいとしてプログラムを構成した。初日にはアイスブレイクを含めた仲間づくりゲームを行い、移動する時や食事の時間設定なども班で合意形成をして行うように支援した。また、日々の振り返りも週の中盤以降は班長が中心となって行うことができるように支援した。

② お楽しみタイムの企画を参加者で企画させて実施するようにプログラムを構成した。企画を考える時間に余裕を持たせ、細部まで考えられるように時間設定を行った。

③ 今年度も参加者の情報共有を行うため、翌朝のスタッフミーティングを設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22	
1日目 (日)													受付	開 会 式	オリエン テーショ ン	仲間づくりゲーム						夕食	入浴	キビキビ タイム		就寝 準備		就寝				
2日目 (月)	起床洗面 清掃朝食	登校	学校										キビキビ宿題 タイム		タ ベ の つ ど い	夕食	入浴	キビキビ タイム		就寝 準備		就寝										
3日目 (火)	起床洗面 清掃朝食	登校	学校										キビキビ宿題 タイム			夕食	入浴	キビキビ タイム		就寝 準備		就寝										
4日目 (水)	起床洗面 清掃朝食	登校	学校										キビキビ宿題 タイム			夕食	お楽しみ タイム①		入浴	就寝 準備		就寝										
5日目 (木)	起床洗面 清掃朝食	登校	学校										キビキビ宿題 タイム			夕食	入浴	キビキビ タイム		就寝 準備		就寝										
6日目 (金)	起床洗面 清掃朝食	登校	学校														お楽しみタイム②			入浴	就寝 準備		就寝									
7日目 (土)	起床 洗面	清掃	朝のつどい	朝食	片付け	点検	クラフト 作成	閉 会 式																								

(2) 活動の状況



【㉑日程 開会式】



【㉒日程 開会式】



【㉑日程 仲間づくりゲーム】



【㉒日程 仲間づくりゲーム】



【(A)日程 ビーイング作り】



【(B)日程 ビーイング作り】



【(A)日程 お楽しみタイム①】



【(B)日程 お楽しみタイム①】



【(A)日程 お楽しみタイム②】



【(B)日程 お楽しみタイム②】



【(A)日程 閉会式】



【(B)日程 閉会式】

4. 成果・課題

(1) 満足度

①日程 満足：100%

②日程 満足：95% やや不満5%

(2) 参加者の声

① ①日程

ア. 洗濯物を洗濯機に入れてその繰り返しの大変さを学んだ。

イ. 話し方やまとめ方がとても分かりやすかったので参考にしたいです。

ウ. 自分の事は自分でできる、やればできると思いました。みんなで話し合いをしたり、ご飯をつくったり、一緒に生活したり、みんなと一緒にすることが楽しいと思いました。

② ②日程

ア. 自分は高学年なので下の学年をまとめていくことを頑張りました。この通学合宿で学んだことは、テキパキと行動する、人のせいにしない、協力するということです。

イ. この一週間で時間を大切にすることを学びました。

ウ. 班でお楽しみタイムとか考えたり、食事を作ったりして、みんなで協力するといろんなことができると思いました。

(3) 成果

① 仲間を意識するという視点を持ち、そのことを意識させるような支援を続けた結果、宿題を教え合ったり、お楽しみタイムを考えたりすることを通して、協力する姿勢が見られた。

② 食事の時間や話し合いの時間等を自分たちで決めて守らせるように支援した。日を追うごとに、班全体で時間を意識することができるようになった。

③ 一週間を通して、班長が中心となって活動することにより、いろいろな仲間と協力して活動することができるようになった。

(4) 今後の課題

①日程では、ボランティアの確保が難しい。今年度、昨年度は2グループに分けて実施したが、ボランティアを確保して運営を行うことを考えれば、時期と2グループ制について再考する必要がある。

担当：企画指導専門職 大下 展弘